

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	普	通	預	金	受	取	手	形	売	掛	金					
前	払	金	他	店	商	品	券	繰	越	商	品	支	払	手	形		
買	掛	金	前	受	金	商	品	券	預	り	金						
引	出	金	売		上	受	取	利	息	仕		入					
給	料	手	当	水	道	光	熱	費	支	払	利	息	手	形	売	却	損

1. 宮城商店に商品¥116,800を売り渡し、代金のうち¥60,000は手付金を充当し、残額のうち1/4は当店を名宛人とする約束手形を受け取り、残額は掛とした。
2. 建物にかかる水道光熱費¥55,000が普通預金口座から引き落とされた。なお、このうち30%は店主の住居部分に対するものである。
3. 得意先より受け取っていた約束手形¥55,000を取引銀行で割り引き、利息相当額が差し引かれた残額を普通預金とした。なお、利息相当額の計算においては利率年0.5%、割引日数は146日、1年は365日で計算する。
4. 従業員に給料¥909,264を普通預金口座から支払った。なお、給料からは所得税の源泉徴収税額が¥230,736差し引かれている。
5. 千葉商店に商品¥70,000を売り渡し、代金は当店発行の商品券¥20,000および他店発行の全国百貨店共通商品券¥50,000を受け取った。

第 2 問 (10 点)

下記の当座預金出納帳、売上帳および買掛金元帳の記入にもとづいて、答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。
なお、各日付の取引は、下記の各帳簿にすべて記入されている。勘定科目は、次に示すものを用いること。

当座預金 売掛金 買掛金 当座借越 売上 仕入 発送費

当座預金出納帳

平 29	成 年	摘 要	預 入	引 出	借/貸	残 高
1	1	前 月 繰 越	400,000		借	400,000
	5	長崎商店売上げに係る当座負担発送費		5,000	〃	395,000
	15	愛媛商店、仕入れ		5,000	〃	390,000
	20	大分商店、掛代金支払い		150,000	〃	240,000
	30	長崎商店、掛代金受取り	280,000		〃	520,000

売 上 帳

平 29	成 年	摘 要	金 額
1	5	長崎商店 掛	
		A商品 80個 @ ¥5,000	400,000
	10	長崎商店 掛戻り	
		A商品 5個 @ ¥5,000	25,000
	15	鹿児島商店 掛	
		B商品 25個 @ ¥6,000	150,000

買 掛 金 元 帳

大 分 商 店

平 29	成 年	摘 要	借 方	貸 方	借/貸	残 高
1	1	前 月 繰 越		150,000	貸	150,000
	20	小 切 手 振 出 し	150,000		-	0

愛 媛 商 店

平 29	成 年	摘 要	借 方	貸 方	借/貸	残 高
1	15	仕 入 れ		100,000	貸	100,000

第 3 問 (30 点)

次の[資料 1]および[資料 2]にもとづいて、答案用紙の平成 29 年 1 月中の合計試算表を作成しなさい。会計期間は 1 年、決算日は 12 月 31 日である。なお、当店は取引銀行と ¥1,000,000 を限度とする当座借越契約を結んでいる。

[資料 1] 平成 28 年 12 月 31 日の貸借対照表

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現金	288,000	支払手形	350,000
当座預金	654,000	買掛金	440,000
受取手形	200,000	前受金	30,000
売掛金	645,000	借入金	500,000
前払金	50,000	貸倒引当金	8,450
商品	190,000	建物減価償却累計額	120,000
前払費用	800	備品減価償却累計額	76,000
建物	900,000	資本金	1,500,000
備品	380,000	当期純利益	283,350
	3,307,800		3,307,800

[資料 2] 平成 29 年 1 月中の取引

- 1 日 再振替仕訳を行う。なお、貸借対照表中の前払費用は利息の前払分である。
- 4 日 鳥取商店より商品 ¥300,000 を仕入れ、代金のうち ¥30,000 は発注時に支払った手付金と相殺し、残額は掛とした。また、商品の引取運賃(当店負担) ¥2,000 は現金で支払った。
- 6 日 群馬商店より商品 ¥180,000 を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- 7 日 群馬商店から仕入れた商品の一部に破損品があったため、商品 ¥10,000 の返品を行い、返品額は掛代金から差し引くことにした。
- 10 日 石川商店に振り出していた約束手形 ¥200,000 の支払期日が到来し、当座預金口座から引落としが行われた旨の連絡を取引銀行から受けた。
- 11 日 山梨商店に商品 ¥600,000 を売り渡し、代金のうち半額は同店振出しの小切手で受け取り、残額は掛とした。なお、同店負担の発送費 ¥3,000 (売掛金とは区別する) を現金で支払った。
- 13 日 島根商店より売掛金 ¥400,000 が当座預金口座に振り込まれた。
- 14 日 さきに山梨商店より受け取った小切手 ¥300,000 を当座預金口座に預け入れた。
- 17 日 徳島商店より商品 ¥200,000 を仕入れ、代金のうち ¥100,000 は岐阜商店振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額は同店宛の約束手形を振り出した。
- 20 日 備品を ¥120,000 で購入し、代金は掛とした。
- 25 日 山梨商店より売掛金 ¥300,000 を、同店振出しの約束手形で回収した。
- 27 日 鳥取商店に買掛金 ¥270,000 を小切手を振り出して支払った。
- 28 日 固定資産税 ¥1,400 を当座預金口座から支払った。
 - 〃 アルバイトに今月のバイト代として ¥44,800 を現金で支払った。
 - 〃 通信費 ¥12,000 が当座預金口座から引き落とされた。なお、通信費の 30% 相当分を家計費として処理する。

第 4 問 (10 点)

代々木商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の 3 種類の伝票に記入し、これを 1 日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の平成 29 年 11 月 1 日の取引について作成された次の各伝票にもとづいて、仕訳日計表を作成し、総勘定元帳および仕入先元帳に転記しなさい。

入金伝票 (売掛金)横浜商店	No.101 22,000	出金伝票 (仕入)	No.201 23,000	振替伝票 (仕入)	No.301 9,000
入金伝票 (受取手形)	No.102 8,000	出金伝票 (仕入)	No.202 8,000	振替伝票 (買掛金)三郷商店	No.302 9,000
入金伝票 (当座預金)	No.103 12,000	出金伝票 (買掛金)三郷商店	No.203 200,000	振替伝票 (買掛金)舞田商店	No.302 5,000
入金伝票 (売上)	No.104 40,000	出金伝票 (支払手形)	No.204 3,000	振替伝票 (支払手形)	No.302 5,000
		出金伝票 (買掛金)舞田商店	No.205 350,000	振替伝票 (売掛金)横浜商店	No.303 20,000
				振替伝票 (売上)	No.303 20,000
				振替伝票 (受取手形)	No.304 10,000
				振替伝票 (売上)	No.304 10,000

第 5 問 (30 点)

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間である。

決算整理事項等

- 現金過不足の残額の原因を調査した結果、売掛金の回収 ¥10,000 および広告宣伝費の支払い ¥12,000 が記帳漏れであったことが判明した。
- 前期に発生した売掛金 ¥4,000 が回収不能となったが、期中において貸倒損失勘定で処理しているため、決算において適正な勘定に振り替える。また、前期に貸倒処理した売掛金 ¥8,000 を当期に回収したが、回収額を売掛金勘定から減額している。
- 商品の期末棚卸高は ¥200,000 である。売上原価の算定場所は売上原価勘定とする。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して 2% の貸倒れを差額補充法により設定する。
- 当期の 10 月 4 日に備品 ¥200,000 を購入 (代金未決済) したが未処理であった。
- 決算に際して減価償却を行う。なお、期中取得分の固定資産については、月割計算を行うこと。
 建物 残存価額 10% 耐用年数 30 年 定額法
 備品 残存価額 ゼロ 耐用年数 20 年 定額法
- 消耗品の期末未使用高は ¥5,000 である。
- 支払地代の繰延額は ¥30,000、受取利息の見越額は ¥800 である。